



発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033-4
編集兼人 杉本一男
半年間 1,800円 送料共
振替口座番号
労働金庫大牟田支店
0968946-005

5月10日 第14回委員会
12月19日 年度末監査
13日 炭労中央委員会
13日 炭労書記長会議

13日 港務所生産会議
15日 9・28裁判51回公判
17日 保安計画説明会
20/22 政策闘争中央行動
23日 炭労教育厚生部長会議
26日 炭労労働部長会議
27日 保安委員会

第八次石炭政策を審議している石炭産業審議会(稲山嘉寛会長)の検討小委員会(向坂正男委員長)は五月八日、国内炭の生産体制を縮小していくとのこれまでの審議経過の中間報告をまとめ、同審議会に報告しました。炭労は十三日、中央委員会を開いて情勢の分析を(な)う(と)も、今後のたたかいについて討議しました。

あくまで維持・存続を

石炭審小委 中間報告 石炭切り捨て方針許さず

四月七日に出た中曽根内閣の私的諮問機関である経研(国際協)予想されていましたが、検討小委員会の報告内容は、慎重な表現をしながらも「需要重視」、「国内」の考え方、「国内炭の役割」、閉山、減産の方向を示しています。

報告の基本方針は、①石炭産業は変化しているとして、需要を確保する生産体制から需要動向を重視した生産体制への転換を求め、②国内炭の生産コスト、③関係者、国内炭生産を大幅修正(縮小)の考え方、④国内炭の役割、⑤閉山、減産の方向を示しています。

報告の基本的な方針は、①石炭産業は変化しているとして、需要を確保する生産体制から需要動向を重視した生産体制への転換を求め、②国内炭の生産コスト、③関係者、国内炭生産を大幅修正(縮小)の考え方、④国内炭の役割、⑤閉山、減産の方向を示しています。

大会決定通り闘う

炭労、中央委で当面の方針

炭労は十三日中央委員会を開き、石炭審小委報告について、二日に各社と積極的に交渉する。中央での盛り込み行動を展開する。七月段階でのたたかいを準備する。当面の重点課題を設定して具体的な行動を起す、などを決めた。

主張

中間報告を糾弾する

石炭審小委の報告を怒りのうちに受けとった。予想された(と)はあ(ら)ぬが、石炭産業労働者と産炭地域住民にとっては、まさに「死活問題」であり、今後の行方がきわめて憂慮されている。第七次までの政策を転換する理由の第一は内外炭格差である。刀打ちできないにしても、すべ

はたらくの気楽台



疑惑 「マルコスさんから贈られたこの帽子に問題があると言うのかね」

国会

会期末に向け緊迫 円高、定数、重要法案で 高まる中曽根批判

東京サミットが終わり、国会は二十二日の会期末に向け、与野党権限をあたえる「安保会議設置法」の攻防が激化、衆議院の定数修正や重要法案の行方とともに、円高で九日に衆議院本会議で審議入りしたその失敗が浮き彫りになってきた。中曽根首相があくまで衆院解散—衆参同日選挙を強行するの(と)も、一部には延期もとりた(と)されているが、まず同時選挙はしない(と)いう情勢です。

地底

沖繩に続いて奄美地方が梅雨に入った。この地方でも二十七度まで気温が上昇したかと思つて、急に雨に見舞われる。

石炭産業審議会の会長は鉄鋼の親玉。この際一刀両断と、ビラを振りかざすのも当然か。電力は内部留保を(と)した(と)持っている。石炭を使うために補助金までもらつてお(と)ながら、今さら(と)いふ(と)は(と)つ(と)ない。円高差益の還元も何分(と)か(と)済ませ(と)う(と)いう(と)姿勢では(と)内需拡大(と)にも(と)ならぬ。強者の論理が(と)ま(と)り(と)通(と)る(と)経済(と)の(と)自由(と)。

七次(と)にわたる石炭対策費に二兆二億(と)円(と)を(と)投(と)じ、(と)今(と)も(と)原油(と)関税(と)を(と)財源(と)に(と)年(と)間(と)千(と)二(と)億(と)を(と)当(と)て(と)いる(と)の(と)う(と)だ(と)。これは(と)炭(と)労(と)者(と)一人(と)当(と)り(と)五(と)百(と)万(と)円(と)と(と)計算(と)する(と)。ま(と)ら(と)半(と)分(と)は(と)後(と)向(と)きの(と)対策(と)費(と)で(と)置(と)場の(と)守(と)り(と)だ(と)。あ(と)は(と)企業(と)の(と)もの(と)。親(と)会社(と)に(と)文(と)句(と)を(と)言(と)つ(と)て(と)ら(と)お(と)う(と)。現場(と)は(と)人員(と)不足(と)と(と)低(と)賃(と)金(と)で(と)泣(と)いて(と)いる(と)。

縮小、撤退の道は示したが量は(と)これ(と)から(と)。各(と)社(と)の(と)ヒ(と)ヤ(と)リン(と)グ(と)に(と)待(と)つ(と)つ(と)の(と)う(と)だ(と)、なん(と)の(と)こ(と)ろ(と)に(と)ない(と)「死(と)ぬ(と)か(と)生(と)きる(と)の(と)か(と)」と(と)迫(と)り(と)、それ(と)を(と)受(と)ける(と)側(と)も(と)「す(と)で(と)に(と)勝負(と)は(と)あ(と)った(と)」。「葬(と)式(と)代(と)は(と)もう(と)う(と)ち(と)」と(と)い(と)う(と)綱(と)引(と)き(と)。い(と)ず(と)れ(と)に(と)も(と)エ(と)ネ(と)ル(と)ー(と)政策(と)の(と)鮮(と)明(と)な(と)青(と)写真(と)は(と)ない(と)。「命(と)と(と)生(と)活(と)を(と)守(と)る(と)真(と)の(と)政策(と)」(と)を(と)必(と)要(と)な(と)の(と)だ(と)。